

リハビリテーションってな～に？

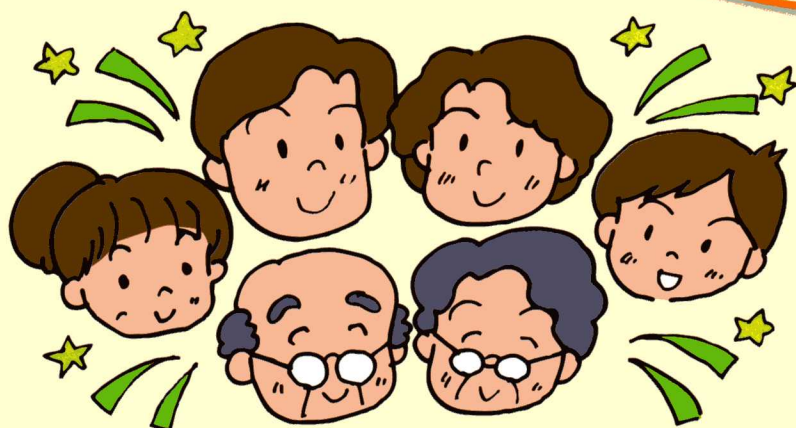
「リハビリテーション」という言葉を聞かれたことがありますか？

「リハビリテーション」という言葉は、最近いろいろなところで使われていますが、その使い方や意味はさまざまです。

リハビリテーションって？

障害があっても高齢になっても

『その人らしく、いつまでも、
楽しく生き生きと生活できること
を目指して取り組むこと』です。



滋賀県

滋賀県立リハビリテーションセンター

発行 2009年3月

Aさんの体験をとおして「リハビリテーション」について考えてみましょう。

〔リハビリテーションは麻痺を治すこと？〕

Aさんは、42歳の女性で、ご主人と自宅でパン屋を経営していました。ある朝、脳梗塞により右片麻痺を発症し救急病院に入院しました。1ヵ月後に救急病院から別の病院に転院しました。転院した病院の医師から「リハビリテーションは麻痺を治す機能訓練だけでなく、どのような生活を送るのかを考え、それができるように生活能力を高めていくものです。」と説明されました。

しかし、Aさんは「右手、右足が良くなれば、元通りの生活ができるから…」ということを繰り返すだけでした。

そこで、医師は「右手の機能訓練も行うが、左手を使って身の回りのこともできるようにしていきますよ。」とAさんに説明しました。

〔残っている機能も使ってできることを〕

その後、Aさんは左手を中心にした調理や掃除などの家事の練習を開始しました。その中で左手の使い方がスムーズになっていくに従い、右手の麻痺の回復へのこだわりが徐々に減少していきました。右手の麻痺は完全に治ることはなく、少し動きがスムーズになった程度でしたが、左手で箸を使って食事の練習も順調に進み身の回りの動作も一人でできるようになり、屋外も杖と装具を使って歩行ができるようになりました。

〔生活の幅をひろげることを〕

病院を退院後、更生施設に入所し、杖や装具を使ってバスや電車に乗る練習や家事の練習、パン屋の仕事で麻痺があってもできる商品の陳列やレジ打ちなどの練習をしました。

退所後、自宅に戻り食事や掃除などの家事や経営していたパン屋でもレジ打ちなどができるようになり、今のAさんらしい楽しく、生き生きとした生活をいつまでもできるようになりました。

(平成12年 財団法人 日本公衆衛生協会 地域リハビリテーション懇談会報告書より改変)

医療リハビリテーション：病院などで医師の指示により行います。体の機能回復や日常生活でできることに取り組みます。

教育リハビリテーション：学校などで障害のある方が自ら障害をしっかり受け止め、生きる力を身につける教育を行います。

職業リハビリテーション：障害のある方が職業を得て、継続できるよう支援を行います。

社会リハビリテーション：いろいろなサービスなどを利用し、社会に参加することを取り組みます。

いくつかの疾患について、次のページから
リハビリテーションの流れを見ていきましょう！

